

学位論文の要旨 (論文の内容の要旨)  
Summary of the Dissertation (Summary of Dissertation Contents)

論 文 題 目  
Dissertation title

ウェブニュース見出しの翻訳メカニズムに関する社会言語学的研究  
— 中日翻訳と日中翻訳を中心に —

広島大学大学院国際協力研究科  
Graduate School for International Development and Cooperation,  
Hiroshima University  
博士課程後期 教育文化専攻  
Doctoral Program Division of Educational Development and  
Cultural and Regional Studies  
学生番号 D156734  
Student ID No.  
氏 名 李 正政  
Name LI ZHENGZHENG



## 第一章 序 論

日中両国のニュースメディアは情報伝達の窓口として、自国の言語で作成したウェブニュースを日本語から中国語へ、または中国語から日本語へと翻訳し、ウェブサイトを通じて日中関連情報をすばやく日中両国の読者に届けている。その際、ウェブニュース見出しの翻訳はウェブニュース翻訳における重要な過程である。ウェブニュース見出しはウェブニュースの中核的情報の縮約であり、読者にウェブニュースの要点を簡潔に伝え、ウェブニュースを読むように導く働きを持っている。そして、ウェブニュース見出しはニュースのウェブサイトで時間的・空間的に制約されている。さらに、日本語と中国語という二つの言語体系の中で言語表現そのものの違いにより、ウェブニュース見出しが形式的にそれぞれ異なる特徴を持ち合わせていることも予想される。これらの事情を考慮すると、ウェブニュース見出しを翻訳する際、重要度の高い情報を精練し、適切な形式で見出しの訳文を表現することは容易なことではない。実際では、ウェブニュース見出しの日中翻訳または中日翻訳の過程で、ウェブニュース見出しの形式を変化させる場合が認められる。そして、原文の情報をそのまま直訳し、伝えることもあれば、原文の情報を省略したり、書き換えたりして、ある程度変容させ伝えることもある。

そのため、本研究では、中国ニュースメディア人民網の中日対訳ウェブニュース見出しと、日本ニュースメディアNHKの日中対訳ウェブニュース見出しを資料とし、ウェブニュース見出しの日中翻訳または日中翻訳の過程において、見出しの情報が如何に捉えられ、伝えられているのかという翻訳メカニズムを明らかにしたうえで、社会言語学の視点から両過程に反映されている翻訳戦略を解明することを目的とする。本研究で得られる成果は日本語と中国語の対照研究、さらにはウェブニュースの翻訳にも貢献できる可能性があると考えられる。

本研究では研究目的を達成するために、次の三つの課題に分けて、研究を進めている。

一つ目は、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しと日本語ウェブニュース見出しについて、形式面と情報面から、言語別に見出しの特徴を明らかにすることである。

二つ目は、ウェブニュース見出しの日中翻訳と日中翻訳について、各翻訳過程における情報

の捉え方を考察し、それぞれの翻訳メカニズムを解明することである。

三つ目は、翻訳されたウェブニュース見出しについて、オリジナルのウェブニュース見出しと比較することで、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳において、それぞれどのような翻訳戦略を取っているのかを明らかにすることである。

本論文は序論と結論を含め、以下の六章で構成されている。

## 第一章 序論

## 第二章 オリジナルのウェブニュース見出しにおける形式と情報

## 第三章 ウェブニュース見出しの中日翻訳における翻訳メカニズム—補足的情報を中心に

## 第四章 ウェブニュース見出しの日中翻訳における翻訳メカニズム—文末の情報を中心に

## 第五章 ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳における翻訳戦略

## 第六章 結論

### 第二章 オリジナルのウェブニュース見出しにおける形式と情報

本章は、人民網のオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと、NHKのオリジナルの日本語ウェブニュース見出しが、それぞれ形式と情報という二つの面に現れた特徴を明らかにした。その結果は次のようにまとめることができる。

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しについて、形式面では、文字数は10文字から30文字以上と範囲が広い。そして、表現形式として通常一行で表されているが、文字数が30文字以上になる場合には二行で表される。また、構文要素として主題や、引題と副題がある。主題だけ持つ単一見出しのほかに、主題に引題または副題を付けることで、「引題+主題」「主題+副題」「引題+主題+副題」といった三種類の複合見出しが現れている。情報面では、常に主幹的情報のほかに、ニュースの背景や、説明、影響などの補足的情報も引題または副題として提示されている。つまり、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは情報を詳しく伝え、読者が見出しからニュース全体の情報を容易に推測できるという戦略が取られている。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しについて、形式面では、文字数が11文字から24文字までの幅である。そして、一段の表現形式より、二段または三段に分けて表示することが頻繁に行われる傾向がある。構文要素としては、「主見出し」と「そで見出し」の二つが現れているが、それらは表現形式の段と必ずしも一対一の対応関係にあるわけではない。実際のところ、ニュースの話題などの「主見出し」だけを提示する場合がある。情報面では、表現形式を問わず、話題のような主幹的情報を中心に伝え、それ以外の情報を加えない傾向がある。また、見出しの文末では述部や形式動詞「する」の部分などを多数省略することで、元々のテンス・アスペクトなどの文法形式を排除し、見出し全体の表現ひいては情報を簡潔化する傾向も現れている。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは情報量を少なめに提供することで、見出しの簡潔さを実現させ、読者のニュース全体への興味を引き出す戦略が取られている。

### 第三章 ウェブニュース見出しの中日翻訳における翻訳メカニズム—補足的情報を中心に

本章は、人民網の中日対訳ウェブニュース見出しを対象に、中国語見出しにおける補足的情報に焦点を当て、それが中日翻訳の過程においてどのように扱われているかを考察し、その翻訳メカニズムを明らかにした。中国語見出しにおける引題と副題の情報は主題を補足するものとして、ニュース情報の理解を深めるために存在しており、本研究では補足的情報と呼んでいる。中国語の単一見出しと複合見出しをそれぞれ考察したが、結果として次のことを指摘する。

1. 単一見出しには補足的情報が含まれることがあることを明らかになった。中日翻訳の過程で中国語の単一見出しにある地名や時間を表す言葉などが直訳され、日本語訳文でそで見出しとして付けられる。また、ニュース事件に関する説明、背景などが補充される。

2. 「引題+主題」の複合見出しについては、ニュースの情報源となる人物名や機関名、ニュースの背景となる引題は直訳され、翻訳過程では優先権になっている。そして、評価的な表現や具体的な表現である引題は訳文の文末に移動され訳出される。また、長くなりすぎた引題や否定表現の引題は省略され、曖昧な表現は明確な言い方に書き換えられることもある。

3. 「主題+副題」の複合見出しについては、演説テーマ、結果、代表例、評価などの副題は直訳されることが多い。そして、ニュースの主旨を強調し、ニュース評価の積極性を深めるために副題の情報が書き換えられる。また、具体的な説明を述べる副題は主題の情報と組み合わせて主見出しとして現れる。主題から推測できる情報、発言を引用した副題が省略される。

4. 「引題+主題+副題」の複合見出しについては、その引題と副題のほとんどは単独に扱う状況と一致している。視点や立場の変化によって誤解を招きやすい引題は省略されることを特別な点として指摘できる。

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しには、補足的情報を常に加えることで、情報面を具体化させている傾向が見られる。ウェブニュース見出しの中日翻訳の過程で、日本語訳文が長くないことを前提とし、現れた補足的情報がおよそ半分直訳され、見出しの情報の完全性と豊富性を維持させている。そのほか、省略または書き換えを通じ、より簡潔かつ総括的な言葉で日本語ウェブニュース見出しに翻訳するという翻訳メカニズムが用いられている。

#### 第四章 ウェブニュース見出しの日中翻訳における翻訳メカニズム—文末の情報を中心に

本章は、NHKの日中対訳ウェブニュース見出しを対象に、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末表現に焦点を当て、文末の情報が日中翻訳の過程でどのように扱われているのか、その翻訳メカニズムについて、翻訳された中国語ウェブニュース見出しと対照しながら明らかにした。以下の四つを明らかにした。

1. 漢語サ変動詞語幹止め見出しの場合、中国語訳では、その多くは意味が類似する1字か2字の動詞を用いて翻訳される。そして、“将”という表現や“就～V”構文の使用が認められる。また、「漢語名詞+漢語サ変動詞語幹」の場合は翻訳される可能性が高く見られる。

2. 名詞止め見出しの場合、中国語訳では人物名の後に付く述語を補充することや、地名を文頭に持ってくるなど文脈に工夫が認められる。そして、予測や可能の意を表す名詞表現が中国語ウェブニュース見出しに現れることはなく、断定の言い方になる傾向がある。

3. 助詞止め見出しにおいては、「を」の場合、その後ろに省略した動詞が中国語訳では補充される。「へ」と「に」の場合、ウェブニュース本文の表現に基づいて、助詞の意味を判断し、中国語見出しに訳出される。「か」と「も」の場合、その意味は中国語ウェブニュース見出しに表されていない。

4. 動詞止め見出しは動詞連用形または動詞終止形で終わる。動詞連用形の場合、中国語訳ではその動詞の訳出度が低い。動詞終止形の場合、そのほとんどは動詞現在形を用いている。中国語訳では、その多くは「劇的現在」の手法として扱われる。また、日本語の動詞が意味的に対応する様々な動詞で翻訳されているという特徴がある。

ウェブニュース見出しの日中翻訳の過程では、日本語ウェブニュース見出しの文末の情報を直訳するよりは、書き換え、省略または書き直しが多用されている。それによって、情報を簡

潔に中国語ウェブニュース見出しへ翻訳するという翻訳メカニズムが用いられ、文末の情報は5割程度しか表されていない。この要因としては段数及び文字数の制約など見出しの作成規則と、中国語の表現方式とを併せて配慮し、見出しの全体に編集が加えられたためと考えられる。

## 第五章 ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳における翻訳戦略

本章は、翻訳された中国語または日本語のウェブニュース見出しをそれぞれオリジナルのウェブニュース見出しと対照するという考察の手法を用い、その類似点と相違点をまとめ、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳それぞれの翻訳過程に用いられる翻訳戦略を解明した。ここで述べる翻訳戦略は、翻訳者がどのような意図を持ってウェブニュース見出しの翻訳を行っているのかということである。

ウェブニュース見出しの中日翻訳の過程では、人民網はオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの形式面と情報面の特徴を配慮しながら、見出しを中国語から日本語に翻訳している。そして、翻訳者は日本語訳文の簡潔性より、情報を明確に伝えることを重要視している。ウェブニュース見出しの中日翻訳では、訳文の日本語見出しの情報をより明確にすることで、読者に見出しから翻訳されたウェブニュース本文の情報を容易に把握できるようにするという戦略が取られている。

これに対し、ウェブニュース見出しの日中翻訳過程では、NHKの翻訳者はオリジナルの中国語ウェブニュース見出しの特徴に配慮しておらず、「形式面で統一的に整え、情報面で引題や副題を付けることはない」というNHK独自の規則に準じて、見出しを日本語から中国語に翻訳している。そして、見出しの中国語訳文を簡潔に表し、その情報量を少なめにしている。翻訳された中国語ウェブニュース見出しで少ない情報を提供するということは、読者のウェブニュースの本文への興味を引き出すという目的を果たすための翻訳戦略であると言える。

## 第六章 結 論

本章は中日翻訳と日中翻訳の両過程において、ウェブニュース見出しの翻訳メカニズムと翻訳戦略を改めて整理し、次の三点を特に主張しておきたい。

一つ目は、オリジナルのウェブニュース見出しの情報について、中日翻訳と日中翻訳とではそれぞれが異なる翻訳メカニズムを用いていることである。

二つ目は、ウェブニュース見出しの翻訳について、中日翻訳と日中翻訳とでは正反対の翻訳戦略が取られていることである。

三つ目は、翻訳されたウェブニュース見出しの情報面は、中日翻訳と日中翻訳とも原文のウェブニュース見出しに影響されたところが多いことである。

そして、ウェブニュース見出しの日中翻訳および中日翻訳について再検討したところ、オリジナルのウェブニュース見出しに対して、単に翻訳の作業がなされているだけでなく、その過程にしばしば編集の行為も加えていることが明らかになった。両過程ではウェブニュース見出しの情報面について、省略や補充という編集がなされることが共通的に認められる。ウェブニュース見出しの翻訳過程で情報面の編集が行われる原因として、類型の問題、言語外の問題、新情報と旧情報の問題、ニュースメディア側の規則といった四つが挙げられる。

今後、見出しの翻訳に関する研究をさらに深めていくとともに、ウェブニュース本文の翻訳へ研究を進めていくことを課題としたい。